

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100159		
法人名	社会福祉法人恵康会		
事業所名	グループホームひかりの丘		
所在地	福岡県北九州市門司区上藤松3丁目2-1 (電話) 093-382-3111		
自己評価作成日	令和元年6月25日	評価結果確定日	令和元年9月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当施設は母体が歯科である為、特に口腔ケアに重きをおいており、毎食後、歯間ブラシや舌ブラシを使用し、口腔衛生に力を入れている。また、職員が口腔ケアに関わることで、口腔内の異常にいち早く気付くことができ、速やかに受診することができている。オーラルフレイルケアにも取り組んでおり、歯科と連携し、口腔機能の維持、向上ができるように努め、いつまでも美味しく食事を楽しんでいただけるように支援し、その方に合った食形態で食事をお出ししている。また、テラスで野菜を作り収穫の楽しみや旬の物を食べていただけるよう毎月、食事作りを行っている。季節感を味わえるよう、外出レクや施設内行事を行い、日々の楽しみを持てるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年7月16日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理事長が歯科医師であり口腔機能の維持と向上にグループホーム全体で取り組んでいる。生涯、口からの摂取を目標に口腔ケア、口腔体操も取り入れている。午後から歯科の治療が一階診察室で行われており利用者の心身の負担を軽減している。行事への取り組みにも積極的に毎月イベントが企画されている。主なものとして、四月の創立記念日には“食べ物でおもてなし”をテーマに和牛焼き肉の提供、七月のソーマン流し、八月の夏祭り、九月の敬老会、十月の運動会、十一月の文化祭、十二月のクリスマス会、二月の節分。三月の合同誕生会では職員手作りのケーキの提供。管弦楽の演奏やキッズダンス（ヒップホップ）等が行われている。事業所のスタッフ全員が穏やかで優しく利用者に接していることが印象的な事業所である。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット入口に事業所理念を掲げ出勤時に見えるようにしている。 法人理念は毎日朝礼で唱和し年に1回施設長により理念の研修が行われている。	事業所内で基本理念と運営方針の位置関係が入れ替わった方が良いという意見があり、理念の再検討が行われているところであった。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域で開催される高齢者支援部会に参加している。	町内会に加入しており、秋祭り等の地域の行事、地域の高齢者支援部会にも積極的に参加している。事業所主催の夏祭り、創立記念日、そうめん流し、クリスマス会、餅つき大会にも地域住民の参加を促している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に認知症の方への対応をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている	事業報告やヒヤリ・ハットの報告を行い意見交換やアドバイスを受けている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されていることが議事録で確認できる。利用者やサービスの実際、ヒヤリハットの報告を通して委員の意見を聴取して介護のスキルアップにつなげている。利用者委員から提案された彼岸花見物を実施した事例がみられる。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回グループホーム空床情報報告書をFAXしている。まちかど介護相談室に登録している。	月1度行政窓口を訪れているが、事務的報告にとどまっており、事業所の現状報告等、行政を活用する取り組みを期待する。	事業所便り等を行政に持参し、事業所の実情を報告するなど積極的に行政に働きかけを行って欲しい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やミーティング等で身体拘束に関する共有認識を図っている。気付かないうちに言葉使いが激しくなっていないか利用者により抑圧感を招いてないか日々、点検している。	日中、玄関や居室は施錠しておらず、それ以外の身体拘束もなされていない。外部研修、内部研修、伝達研修が全職員を対象にきめ細かく行われており、利用者の外出傾向も全職員が理解している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待について理解浸透や遵守に取り組みを行っている。職員のストレスも発散できるよう面談だけではなく日常の会話も大切にしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し理解を深めるようにしている。必要に応じてご家族に説明を行っている。	制度についての説明は家族の来訪時に行われている。外部研修、内部研修も行われている。また、一部の職員による外部研修参加ではなく職員に交代で研修参加がなされている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、しっかりと時間をかけて説明している。不安や疑問がある時はいつでも相談に応じている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは面会時や電話でのやり取りを行い何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。要望等はミーティングで話し合い情報を共有している。	運営推進会議には利用者の参加がみられる。職員、管理者に遠慮なく利用者、家族から意見の表出がなされている。事例として夫の法要参加の希望があり、職員2名の協力で行われた。また、利用者、家族が希望する理容院での整髪がなされている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット月2回ユニットミーティングを開催し全員が参加できるように努めている。その中で発言しやすい環境を作っている。また、日頃からコミュニケーションをとり職員1人ひとりの個性を大切にしている。	全職員で自己評価に取り組んでいる。管理者は、意見を言うのが苦手な職員に声をかけて意見を引き出すように努めている。認知症予防のための貼り絵の材料、買物から料理までを利用者、職員が協力してバイキング料理をつくる食事レクリエーションの提案等を実施している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやす職場を目指し有給休暇を取りやすくしている。急な勤務変更も職員間で調整し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>就労支援の協力雇用主となっている。対人援助スキルを磨き幅広く職員の募集、採用をしていきたい。また現在事業所で働いている職員の資格取得に向け協力体制を作っている。</p>	<p>職員の男女構成は、男性4名、女性9名で年齢構成は23歳から71歳。定年は66歳であるが、定年後は一年更新で体力、気力が続く限り仕事が続けられる制度である。資格取得による給与のアップもみられる。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>施設内外の研修へ参加し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育の内部研修が全職員に対して年1回行われている。テキスト、研修記録が確認できる。また、広義（性的マイノリティ等を含む）にわたる人権の外部研修への参加も確認できる。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勤務調整を行いできるだけ多くの職員が施設内外研修に参加できるようにしている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>施設外研修で同業者との交流を図っている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>しっかりと話を傾聴し、不安が強い方は少しずつでも安心していただけるよう声掛けを行っている。ご家族から本人の性格を伺いその都度対応方法を考えている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族の困っていること、大変なこと等に共感し安心していただけるように努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族が本人と一緒に来所されることが困難な場合、職員が自宅までお迎えに行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話や料理の作り方等わからない時はご利用者に尋ねている。ご利用者が感情を抑えなくていい環境作りに努めている。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の対応で職員もわからないことがあるとご家族に相談し対応の仕方を学んでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との行事や知人との集まりがある時は少しでも協力ができるよう送迎等を行っている。	利用者の生活歴等についての検証と理解が職員全体でなされている。かつて利用者が勤務していたデパートへの訪問や利用者の逝去後、遺された家族との関係の継続が行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の和を大切にしているが、あまり人との交流を好まない方は様子を伺いながら職員が間に入り和を広げようとしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたご利用者のご家族が高齢で1人暮らしの時、自宅へ出向きお参りさせていただいている。生活の様子も伺っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションを通じて習慣やこだわり等の把握に努めている。表情からも思いを汲み取るようにしている。	事業所のスタッフの異動が少なく長年培ってきた経験が職員間で共有され、日々検討が加えられてるため利用者の希望、意向の把握において適切に対応している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でアセスメントを取り情報収集に努めている。ご家族からお話を伺いご本人にとって入居後の生活を暮らしやすいように整えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かくアセスメントを行いご本人の把握に努めている。生活のリズムを大切に、ご利用者と職員の間で適切な距離を保つようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、ユニットミーティングを定期的に行なっている。ご家族からの意見も参考にご利用者の生活を支えている。	担当者が、本人や家族の意見・意向を反映させた具体的な介護計画を作成している。例えば、本人から、動きたくないが、身体のために運動は必要という意見から、楽しみながら運動できる介護計画を作成したという事例がある。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者に関する記録を毎日パソコン入力している。スタッフ間で細かな気付きや疑問は日々話し合うようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、多職種と連携を図りサービスの実施を行っている。その時々に応じて専門職の協力を得ている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回ボランティアによる体操教室が行われている。また法人行事である夏祭りや餅つき等に地域の方に参加していただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望通りに受診を行っている。ご入居者のほとんどが月2回の往診を受けており医師が親身に話の傾聴や説明をして下さり安心して生活が送れている。	協力病院との連携はよく取れている。協力病院以外にも訪問診療の医院から2週間に1回の往診が行われており、歯科診療についても法人母体の歯科が毎日の口腔ケアを行っている。入所以前からのかかりつけ医への受診についても協力的で、家族の希望があれば遠方でも職員が送迎し、受診の支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に日常生活の様子や往診時の報告をしている。24時間体制で主に体調面での対応が可能となっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院側と電話や面会時に情報交換を行っている。入院中はできるだけ本人の面会に行き状態を把握するようにしている。ご家族とも連絡をとり早期に退院ができるよう対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けたお話をしている。職員は終末期の対応について勉強会や研修を行っている。	重度化や看取りについてのマニュアルがあり、職員が共有している。施設入所時に説明があるほか、利用者の状況変化に応じて家族に説明と話し合いを行っている。家族が泊まり込む場合はソファベッドを事業所が用意し、要望あれば食事を提供している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きた時のマニュアルや緊急連絡網を作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行っている。その内1回は夜間を想定した避難訓練を実施している。</p>	<p>火災を想定した消防計画があり、年2回の避難訓練（内1回は夜間を想定）を行っている。土砂災害警戒区域に立地しているため、消防署と協議し、耐震建物のため施設内避難を示されたとのこと。消防署、民生委員への呼びかけは行っている。非常用備品は1階倉庫に飲料水、非常用食料、おむつ、コンロを用意している。</p>	<p>自治会活動や運営推進会議等で地域住民の参加呼びかけを行うなどの取組みに期待します。</p>
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご利用者への言葉使いや態度に気を付けた対応を心掛けている。</p>	<p>利用者の人格を損なわないよう言葉使いや態度に気をつけた対応に心掛けている。ミーティング・研修で、意識向上を図っている。他の家族や外来者に対して本人のプライバシーに関して話さないようしているが、なかなか難しい場面もあり、その時は上席職員に繋ぐようにしている。</p>	
39	—	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>個人の思いに耳を傾け、自己決定ができるよう選択肢のある声掛けを行うようにしている。</p>		
40	—	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはあるが無理強いはず、本人のできること、興味あること等本人のペースに合わせた生活が行えるよう支援している。</p>		
41	—	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご利用者と一緒に季節や場所に応じた洋服を選ぶようにしている。外出や行事の時、化粧やマネキュアをしておしゃれを楽しむようにしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回ユニットで食事作りやおやつ作りを行いご利用者のお好きな物、食べたい物を取り入れ一緒に準備や調理を行っている。	献立は法人栄養士が作成するため、施設の希望通りにいかないこともあるため、月に数回利用者の要望を聞き、すき焼きやおはぎ、肉うどんなど施設内での手作りを楽しんでいる。また畑で収穫した野菜で浅漬や焼きナス、サラダ、てんぷらなどを作り食事を楽しむ工夫をしている。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分摂取量を把握し水分が不足している場合にはお好みの飲み物やイオンゼリーを提供し水分補給の確保をしている。食事量が減少してきている方には本人の好みの物を提供したり主治医や管理栄養士に相談している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い磨き残しがないか職員が確認し必要があれば手直しをしている。食事前には口腔体操を行い咀嚼機能や嚥下機能低下の予防に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し必要に応じて定期的にトイレ誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパッド、オムツはその時々で使い分けをしている。	排泄チェック表を活用し、適切な大きさのバットに変えることで利用者の快適さに沿うようにしている。リハビリパンツとパットを使用していた利用者が、チェック表を活用し、日中布パンツに変更。その後トイレの意思表示が明確となり、日中は失禁せずに過ごせるようになった事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、体操やストレッチ等、身体を動かす時間を設けたり入浴時にマッサージを行っている。水分補給も気を付けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人と話し合い、その日の気分や体調を考慮し入浴している。	週3回から4回のペースで入浴支援を行っている。入浴の希望があれば、随時対応している。午前と午後に入浴時間を設定しているが、利用者の体調や気分を考慮して柔軟に対応している。入浴を拒否される利用者の方には、施設外の入浴施設に誘って入浴した例もある。人を替え、場所を替えて、入浴を楽しんでいただく工夫をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが見られた時やその日の体調に応じて居室で休んでいただくようにしている。夜間、寝付きが悪い時は、飲み物や軽い食べ物を提供しリラックスしていただけるようにしている。		
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く薬情をファイルし、いつでも確認ができるようにしている。服薬後、心身の状態に変化があれば主治医に相談し調整していただいている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションへ参加したりご家族からの差し入れを召し上がったりされている。その他洗濯物たたみやおしぼりたたみ等されている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見や外食、ドライブ等定期的に外出をしている。新聞やTVを見てご利用者からのリクエストがあれば可能な限り近日中に実行している。ご家族との時間も大切にさせていただくため、自由に外出や外泊ができるように支援している。	利用者本位で、散歩、外出等の支援を行っている。1時間以上も歩きたがる利用者には思い通り歩いてもらうが、体力を考え、帰りは車で迎えに来てもらう工夫をしている。利用者のリクエストに応じて、彼岸花の見物や、初詣等の外出、デパートのバイキング・魚料理・しゃぶしゃぶなどの外食にも出かけている。外泊も利用者の希望に応じる支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はされていないが、ご家族と相談し職員と買い物に出掛けたり必要な物は購入できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者は電話をされたり親戚や友人に手紙を出されている。本人が不安な時はご家族に電話しお話をさせていただいている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングが明るくなるよう陽射しを上手に取り入れBGMを流したりお花を飾り季節感を出す工夫をしている。また快適に過ごせるよう空調調整や冬場は加湿器を使用し湿度の調子もこまめに行っている。	職員が中心となって、季節感のある環境整備を行っている。利用者が手作りした貼り絵を掲示するなど、居心地の良い空間づくりに努めている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合うご利用者同士で過ごされている。たまに口論が見られることもありそのような時は、ソファがある場所へ移動されたり他のご利用者とお話ができるように必要に応じて職員が間に入るようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や使いやすい物を配置し心地よく過ごせるよう配慮している。	ベッド、エアコン、カーテンは施設で用意している。本人の使い慣れた物や、お孫さんの写真や、仏壇を持ち込む等、本人の使い慣れた物や、好みのもの、使いやすいものを配置して居心地よく過ごせるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており必要な場所には手摺が設置されている。動線に転倒に繋がるような物は置かないように気を付けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット入口に事業所理念を掲げ出勤時に見えるようにしている。 法人理念は毎日朝礼で唱和し年に1回施設長により理念の研修が行われている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域で開催される高齢者支援部会に参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に認知症の方への対応をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告やヒヤリ・ハットの報告を行い意見交換やアドバイスを受けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回グループホーム空床情報報告書をFAXしている。まちかど介護相談室に登録している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やミーティング等で身体拘束に関する共有認識を図っている。気付かないうちに言葉使いが激しくなっていないか利用者に抑圧感を招いてないか日々、点検している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等で虐待について理解浸透や遵守に取り組みを行っている。職員のストレスも発散できるよう面談だけではなく日常の会話も大切にしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し理解を深めるようにしている。必要に応じてご家族に説明を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、しっかりと時間をかけて説明している。不安や疑問がある時はいつでも相談に応じている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは面会時や電話でのやり取りを行い何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。要望等はミーティングで話し合い情報を共有している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット月2回ユニットミーティングを開催し全員が参加できるように努めている。その中で発言しやすい環境を作っている。また、日頃からコミュニケーションをとり職員1人ひとりの個性を大切にしている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやす職場を目指し有給休暇を取りやすくしている。急な勤務変更も職員間で調整し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	就労支援の協力雇用主となっている。対人援助スキルを磨き幅広く職員の募集、採用をしていきたい。また現在事業所で働いている職員の資格取得に向け協力体制を作っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内外の研修へ参加し人権教育、啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行いできるだけ多くの職員が施設内外研修に参加できるようにしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修で同業者との交流を図っている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	しっかりと話を傾聴し、不安が強い方は少しずつでも安心していただけるよう声掛けを行っている。ご家族から本人の性格を伺いその都度対応方法を考えている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っていること、大変なこと等に共感し安心していただけるように努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、ご家族が本人と一緒に来所されることが困難な場合、職員が自宅までお迎えに行っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の話や料理の作り方等わからない時はご利用者に尋ねている。ご利用者が感情を抑えなくていい環境作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の対応で職員もわからないことがあるとご家族に相談し対応の仕方を学んでいる。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との行事や知人との集まりがある時は少しでも協力ができるよう送迎等を行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の和を大切にしているが、あまり人との交流を好まない方は様子を伺いながら職員が間に入り和を広げるようにしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたご利用者のご家族が高齢で1人暮らしの時、自宅へ出向きお参りさせていただいている。生活の様子も伺っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションを通じて習慣やこだわり等の把握に努めている。表情からも思いを汲み取るようにしている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談でアセスメントを取り情報収集に努めている。ご家族からお話を伺いご本人にとって入居後の生活を暮らしやすいように整えている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かくアセスメントを行いご本人の把握に努めている。生活のリズムを大切に、ご利用者と職員の間で適切な距離を保つようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議、ユニットミーティングを定期的に行なっている。ご家族からの意見も参考にご利用者の生活を支えている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者に関する記録を毎日パソコン入力している。スタッフ間で細かな気付きや疑問は日々話し合うようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対し、多職種と連携を図りサービスの実施を行っている。その時々に応じて専門職の協力を得ている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回ボランティアによる体操教室が行われている。また法入行事である夏祭りや餅つき等に地域の方に参加していただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望通りに受診を行っている。ご入居者のほとんどが月2回の往診を受けており医師が親身に話の傾聴や説明をして下さり安心して生活が送れている。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に日常生活の様子や往診時の報告をしている。24時間体制で主に体調面での対応が可能となっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院側と電話や面会時に情報交換を行っている。入院中はできるだけ本人の面会に行き状態を把握するようにしている。ご家族とも連絡をとり早期に退院ができるよう対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期に向けたお話をしている。職員は終末期の対応について勉強会や研修を行っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故が起きた時のマニュアルや緊急連絡網を作成している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。その内1回は夜間を想定した避難訓練を実施している。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への言葉使いや態度に気を付けた対応を心掛けている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の思いに耳を傾け、自己決定ができるよう選択肢のある声掛けを行うようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが無理強いはず、本人のできること、興味あること等本人のペースに合わせた生活が行えるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者と一緒に季節や場所に応じた洋服を選ぶようにしている。外出や行事の時、化粧やマネキュアをしておしゃれを楽しむようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に数回ユニットで食事作りやおやつ作りを行いご利用者のお好きな物、食べたい物を取り入れ一緒に準備や調理を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、水分摂取量を把握し水分が不足している場合にはお好みの飲み物やイオンゼリーを提供し水分補給の確保をしている。食事量が減少してきている方には本人の好みの物を提供したり主治医や管理栄養士に相談している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行い磨き残しがないか職員が確認し必要があれば手直しをしている。食事前には口腔体操を行い咀嚼機能や嚥下機能低下の予防に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し必要に応じて定期的にトイレ誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパッド、オムツはその時々で使い分けをしている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、体操やストレッチ等、身体を動かす時間を設けたり入浴時にマッサージを行っている。水分補給も気を付けている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人と話し合い、その日の気分や体調を考慮し入浴している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れが見られた時やその日の体調に応じて居室で休んでいただくようにしている。夜間、寝付きが悪い時は、飲み物や軽い食べ物を提供しリラックスしていただけるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から届く薬情をファイルし、いつでも確認ができるようにしている。服薬後、心身の状態に変化があれば主治医に相談し調整していただいている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションへ参加したりご家族からの差し入れを召し上がったたりされている。その他洗濯物たたみやおしぼりたたみ等されている。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は敷地内の散歩をしたり1人ひとりに応じた外出を計画している。ご家族の協力により毎週、自宅へ帰省される方もいる。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はされていないが、ご家族と相談し職員と買い物に出掛けたり必要な物は購入できるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時に対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにリビングの壁面に飾りをしている。空気の入替えやエアコンや加湿器を使用し室温を一定に保つよう気を付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で会話を楽しまれたり居室で1人でゆっくり過ごされたりとご自分のペースで過ごされている。必要に応じて職員が介入している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を活かして自由に暮らせるように支援している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に段差はあるが必要な方は蛍光テープを貼り段差が分かるようにしている。共有スペースには手摺があり動線には物を置かないように転倒防止に努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		